

開会あいさつ

姫路市長 石見利勝



皆さん、こんにちは。一言ごあいさつを申し上げます。「2009姫路市都市景観フォーラム」にたくさんおいでいただきまして、ありがとうございます。

この景観、景色、これは我々が住んでいて非常に気持ちよくなる景色と不愉快になる景色、いろいろございます。市では都市景観賞というのを制定させていただいており、表彰申し上げるわけですが、景観というのは例えば、お店の中で商売をしておられて買い物客がそれを買うわけですが、外を歩いている人がこのお店の前を歩くとき非常に気持ちがいい。お金を払わなくてもその美しい景観を楽しむことができる。こういうのを経済の外部性、外部経済といいますね。この花屋さんがある、そこを通るだけで非常に気持ちがいい。

今日表彰させていただく景観は、そういう意味では、非常に皆さんに快い、そして姫路の美しさに貢献いただいていると、それに対して我々が特に何かを支払っているわけではない。非常に大きな外部経済を発揮していただいております。

これに対して外部不経済というのもございます。そこへ行くといつも騒音を出して、うるさくて不愉快になる。しかしその不愉快

を我々が我慢してるわけで、そこから、うるさい、100円出せというようにお金をもらうわけではないんですけども、そういう周りにいろんな我慢を強いてる、これを外部不経済といいます。

その典型が炭酸ガスでありまして、生産、一生懸命、物をつくる。しかし、それによって炭酸ガスがいっぱい発生する。しかし、その炭酸ガスについては特にお金を払うわけでもない。この外部不経済に対して排出権ということでお金を取っていかうと、こういう新しい仕組みができつつありまして、これからそのように景観であるとか、水の美しさであるとか、いろんな市場で取引をされていない大事なもの、こういうものをどうやって評価していくか、これは非常に重要な問題でありまして、姫路市はそういう市場では取引されていないんだけど、美しい道をつくったり、お城の景観を整備したり、こういうものに対して税金を払っているわけです。

これは、そのことですぐ税金が返ってくるわけでもないんですけども、市民の皆さんが満足しておられる。この満足を幾らに見るか。このwillingness to pay、支払いたいかわず、これのためなら100円払ってもいい、美しい水のためなら1万円払ってもいいという、この気持ちによって姫路市政は支えられているという部分もございます。

今日の景観は、そういう意味では外部経済の典型的なものでございますが、皆さんのご協力によって、ますます姫路市を美しくしてまいりたい。今日の表彰を受けられる皆様のご貢献に対して、皆様とともに敬意を表させていただきます。

今日はどうもありがとうございます。